

米国 企業の販促や気温の上昇が小売売上を押し上げ (06年7月小売売上高)

発表日：06年8月11日(金)

～小売売上の拡大ペースに過熱感はない～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)		
			除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン
05/07	+2.0	(+9.8)	+0.3	+4.8	+7.8	+0.1	▲0.3	+0.5	▲1.3	+2.9
05/08	▲1.7	(+8.1)	+1.1	▲6.9	▲11.0	+1.4	+0.5	+1.4	+0.8	+5.1
05/09	+0.4	(+6.6)	+1.5	▲1.6	▲3.6	+2.1	+1.1	+1.6	▲0.2	+6.0
05/10	+0.3	(+6.2)	+0.7	▲0.6	▲1.6	▲1.2	+0.7	+0.7	+2.8	▲1.1
05/11	+0.6	(+6.7)	▲0.4	+3.3	+4.7	+0.5	+0.2	▲1.0	▲0.1	▲6.2
05/12	+0.4	(+5.8)	+0.2	+0.6	+1.4	▲0.7	▲1.2	+0.3	▲0.2	▲0.0
06/01	+3.0	(+9.4)	+2.7	+5.2	+4.1	+6.6	+7.1	+1.7	+2.6	+4.5
06/02	▲0.8	(+7.4)	▲0.2	▲2.4	▲3.1	▲2.6	▲3.5	+0.3	▲1.1	▲1.3
06/03	+0.7	(+8.0)	+0.6	+1.2	+1.3	+0.4	▲0.1	+0.3	+0.5	+0.4
06/04	+0.7	(+7.0)	+0.7	▲0.3	+0.4	+0.6	+0.3	+1.4	+0.5	+5.7
06/05	+0.2	(+7.6)	+0.8	▲1.2	▲2.1	+0.5	+0.8	+1.1	+0.7	+2.0
06/06	▲0.4	(+5.4)	+0.1	▲1.8	▲2.5	+1.3	+0.2	+0.4	+0.5	+0.8
06/07	+1.4	(+4.8)	+1.0	+2.5	+3.1	+0.5	+1.9	+0.9	+0.7	+2.5

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

自動車を除く小売売上高は前月比+1.0%と市場予想を上回った

06年7月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+1.4% (前月同▲0.4%) と市場予想の同+0.9%を上回った (5、6月合計で0.2%ポイント下方改定)。自動車、家電が増加したうえ、ガソリン販売、建設資材など非耐久財売上が加速した。変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+1.0% (同+0.1%) と市場予想である同+0.5%を上回った (5、6月合計で0.1%ポイント下方改定)。さらに、全体からガソリンを除いた小売・飲食サービス売上高は前月比+1.3% (同▲0.5%) とプラスに転じた。

7月は複数の押し上げ要因があった

7月の小売売上高の上ぶれは、過去の下方改定に加えて、特殊要因による押し上げが大きく影響した。7月の小売売上を押し上げた要因として、5つ挙げられる。

- ① 自動車部門で一般購入者への従業員向け割引、ゼロ金利ローンの導入など自動車各社が積極的な販促を実施したことで、自動車販売が押し上げられた。
- ② さらに、今年は7月として過去112年で2番目の暑さとなったためエアコン、扇風機などの家電販売が押し上げられた。また、暑さを凌ぐために、ショッピングセンターに出かけるなど飲食店の販売も増加した。
- ③ 例年よりも早めに実施された新学期商戦向けの販促によって衣料品、MP3を含む

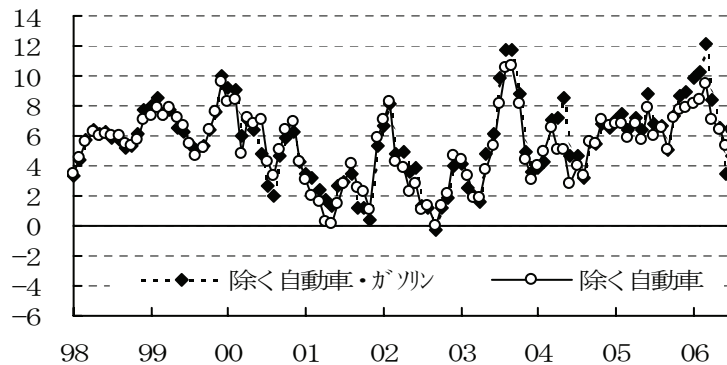
む電子機器、携帯が売り上げを伸ばした。

- ④ 1ガロン=3ドルではガソリン消費をあまり抑制しないとのアンケート結果が示すようにドライブシーズンに入り、消費量の拡大と価格の上昇によってガソリン販売が増加した。
- ⑤ 最後に、景気が堅調さを維持しているなかで、長期金利が低下したことからモーゲージローンのリファイナンスの縮小に歯止めがかかるなど、資金調達面の環境改善も小売販売を押し上げた。

小売売上高は過熱のない拡大ペース

月次での変動に影響され難く基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でみると、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+7.9%（前月+6.6%）とガソリン販売の増加によって高い伸びを維持した。一方、自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高は6月に+4.6%（同+3.4%）と過熱感ないペースを維持している。

(%) 小売・飲食サービス売上高
(3ヵ月移動平均、3ヵ月前対比年率)



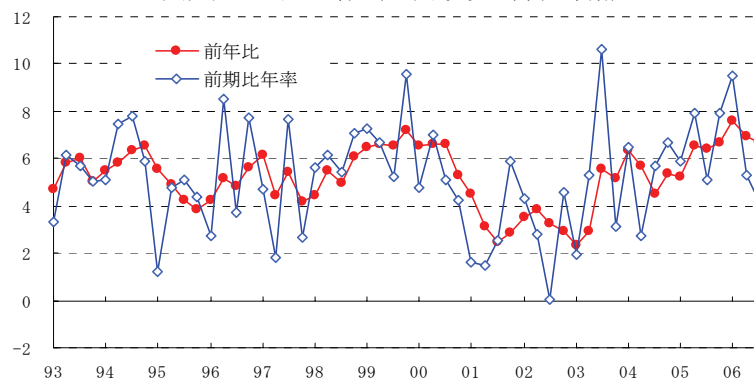
7～9月期の個人消費は前期比年率+3.0%が予想される

GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、7月に前月比+0.6%（前月同+0.3%）と加速した。4～6月期対比年率では+4.2%と4～6月期の同+5.3%から減速した一方、自動車販売台数は7月に季節調整済み年率1724万台と4～6月期の同1632万台から増加した。

8月入り後の消費動向では、8月第1週の小売売上高が前週▲0.2%と低下しているものの、8月の自動車販売は7月から小幅増加している模様であり、個人消費は7月と同程度の水準（前月比変わらず）を維持していると予想される。

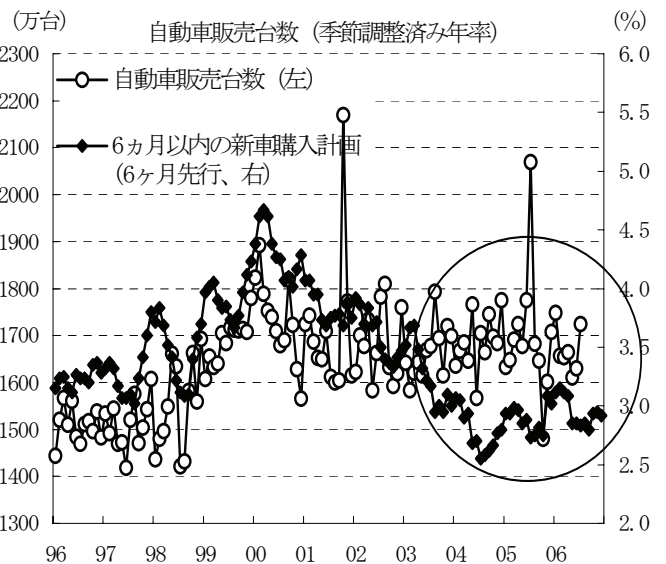
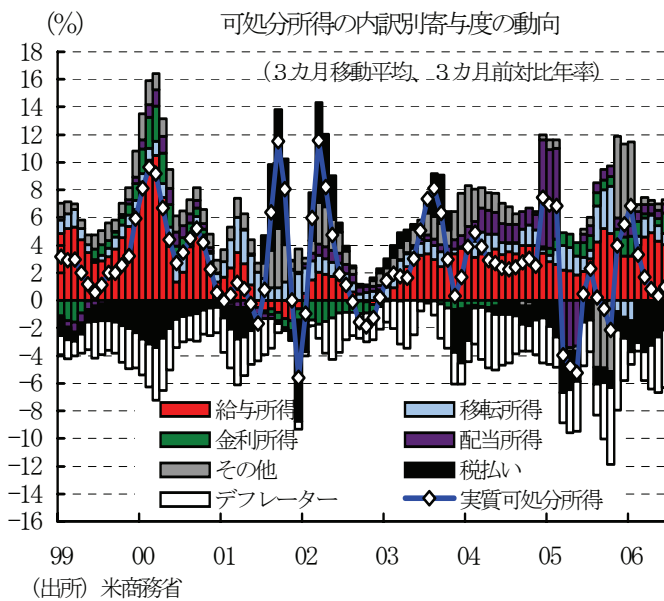
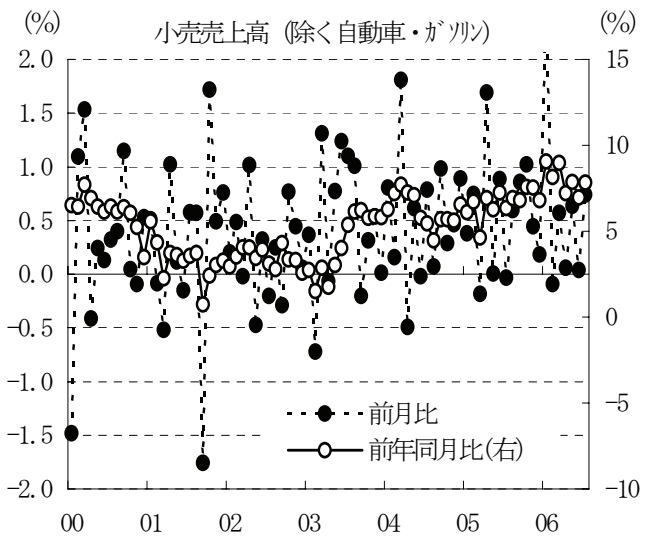
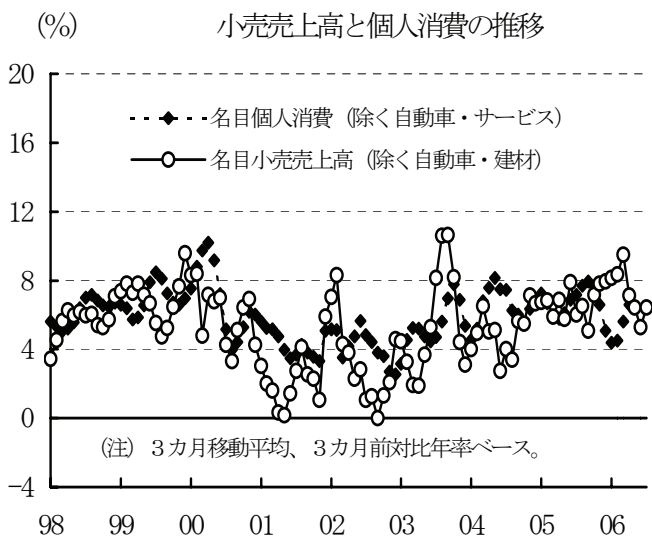
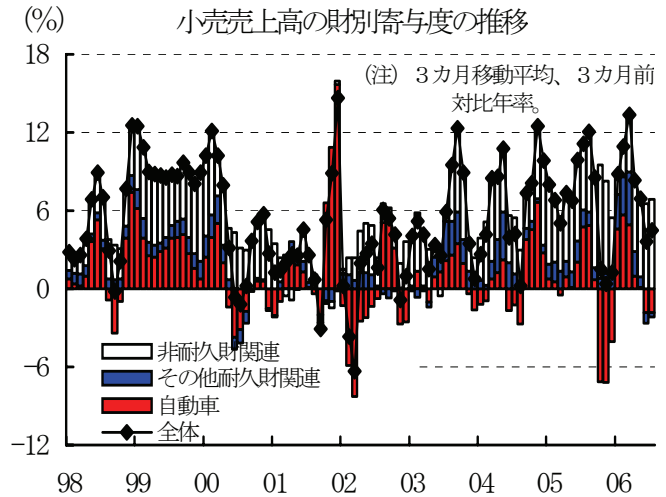
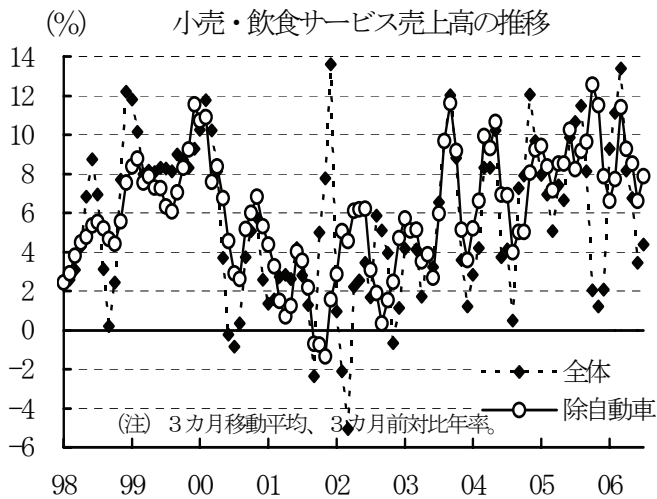
以上のことから、7～9月期の実質個人消費は前期比年率+3%でのペースで拡大していると判断される（先行きについてはWeekly Global Economy参照）。

(%) 自動車・ガソリン・建材を除く小売売上高(四半期)



(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。